

謹 賀 新 年

公益社団法人 隊友会

会長 藤 縄 祐 爾

理事長 折 木 良 一

常務理事 増 田 好 平

常務理事 河 野 克 俊

常務理事 齊 藤 治 和

常務執行役 山 下 裕 貴

(総務担当)

事務局長 藤 井 貞 文

公益財団法人 偕行社

会長 志 摩 篤

相談役 富 澤 暉

理事長 森 勉

副理事長 深 山 明 敏

副理事長 熊 谷 猛

副理事長 白 石 一 郎

専務理事 奥 村 快 也

事務局長 山 越 孝 雄

公益財団法人 水交会

会長 赤 星 慶 治

副会長 佐 賀 幾 雄

理事長 杉 本 正 彦

副理事長 河 野 克 俊

専務理事 村 上 豊

事務局長 長 谷 川 洋

航空自衛隊退職者団体

つばさ会

会長 齊 藤 治 和

副会長 杉 山 良 行

副会長 片 山 隆 仁

副会長 戸 田 眞 一 郎

副会長 藤 田 信 之

専務理事 古 賀 久 夫

谷 井 修 平

公益財団法人

大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会

会長 島 村 宜 伸

理事長 山 下 輝 男

専務理事 伊 藤 隆

常務理事 國 澤 輝 生

東郷神社

宮 司 福 田 勉

東郷会

会長 友 國 八 郎

副会長 田 内 浩

兼理事長 伊 藤 和 雄

編集長 足 立 晴 夫

事務局長

公益財団法人 特攻隊戦没者慰霊顕彰会

会長 杉 山 幸 生

理事長 藤 田 幸 生

副理事長 岩 崎 茂

専務理事兼

事務局長 石 井 光 政

理事 白 田 智 子

鮎 田 英 一

大 穂 園 井

岡 部 俊 哉

久 納 雄 二

福 江 広 明

阿 部 軍 喜

羽 渕 徹 也

監 事

年頭の御挨拶

公益財団法人
特攻隊戦没者慰霊顕彰会

理事長 藤田 幸生

「一瞬の光陰！」
新年明けましておめでとうございま
す。

令和4年、西暦2022年の年が、
明けました。会員の皆様におかれまし
ては、新型コロナウイルス禍の中、
新しい気持ちで、新年を迎えられたこ
とと存じます。
無事に越年できたことは、ただそれだ
けでも、お目出たいことだという、そ
んな気持ちです。

昔、日本では、「人生五十年」と、
言われていました。特攻隊員の皆さん
方は、「二十歳前後」の若さで、戦死
されています。その一方で、元自衛官
であった私は、来年、無事に傘寿、
「八十歳」を迎えることが出来ます。
しかし、この「二十年」「五十年」
「八十年」という時間…それらは、
いずれも、地球上の長い時の流れから
すれば、「一瞬の光陰」に過ぎないの
ではないかと等と、考えられます。
人生には、それぞれに、その人の時
代毎に、様々な事が生起してきていま
す。私達は、その中で、「自己の生」
を一生懸命に繋ぎ、時を過ごしてきて
いるのだと思えるのです。戦争も平和
も、怪我也、この疾病さえも、「その
過程で起こる、一つの現象である」と、
いう見方が、できるのではないでしょ
うか？

戦後七十余年、日本では戦争のない
時が過ぎてきました。従って、この間
勿論、一人の「戦死者」も、出して
ません。私は、防衛大学校卒業時の写
真を、購入しました。そして、「両親に、
「これは、私が殉職等したときには、
今後、何時でも、葬儀用遺影として使っ
て欲しい。」と言って、渡しました。

私は、緊急事態を幾度か経験しました
が、何とか無事に生きて退官できまし
た。ここに、傘寿を迎えようとしてい
ます。だから、その結果として、特攻
隊戦没者に比べれば、4倍程の時間、
この世に生を得てきたこととなります。

私は、短躯ながら、健康に恵まれて、
生まれ育ちました。しかし、それにし
ても、「長生き、できたものだ！」と
は、思います。そうして今、全ての
「任」を終えて、コロナ禍後のことを、
つらつら考えられる状態に居ります。
時代も、状況も異なり、特攻隊で、
若くして戦死された先輩方と、自分と
の比較は、出来ません。しかし、「ど
ちらが、中味の濃い人生を、送ったの
だろうか？」と、考えてみますと、
「短い人生を送られたけれども、『特
攻隊の先輩方』ではなからうか？」と、
思われてなりません。だから、「人生
の価値」は、人の世の時間の長短では
ないように思われてくるのです。

いかなる人生も、「人生は、一瞬の
光陰！」では、ないでしょうか？

「新年によせて」



(特攻隊戦没者慰霊顕彰会会員)

茶道裏千家大宗匠 千 玄室

感染症の収束が見通せない中での新年ではありますが、恙なく迎えられたことお喜び申します。

本年は、壬寅の年回りであり、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れると言われます。皆さん方が感染予防の為に日々努力を重ねられた結果が出ることを、願わずにはいられません。

あの忌まわしい戦いが、敗戦という結果で終結してから七十七年がたちました。八月十五日を終戦記念日とおっしゃるが、私にとっては敗戦記念日にほかならない

のであります。

戦争というものは、非常に残酷なものであり直接には関与しない一般の人達が命を失っていかなくてはならない、その様な残酷な戦争というものが引き起こされないよう多くの人が祈っているのです。

私は、先の大戦時に大学二年生で徴兵猶予が取り消され、体も壮健でありましたので海軍に採用されました。その後試験を通り難関だった海軍航空隊の搭乗員として、わずかな期間の士官教育と飛行訓練を受けた後、海軍少尉に任官しました。そして特別攻撃隊編成により、白菊特別攻撃隊隊員となったのです。

日々、飛行機と取り組み、最後には特攻として突っ込んでいく訓練をするという厳しい道の中に私達は存在していたのです。戦争がひどくなる中、一九四五年五月に沖縄攻撃に向け徳島航空隊から三十機が九州南端の鹿屋の基地へ進発しました。しかし鹿屋の基地は既に戦闘機、艦上攻撃機、艦上爆撃機で一杯になっており、我々はすぐ先の串良の基地から出撃になりました。皆が進発していく中、私には待機命令が出て不本意ながら松山基地に参りましてそこで終戦、敗戦を迎えました。七十七年間常に忸怩たる思いを

抱え、出撃前に皆にお茶を振る舞った時の「生きて帰ったらおまえのこの茶室

で茶をのませてくれよ」と言った声は今も耳奥に残っています。私の背には多くの戦友が顔を揃えてついているのを常に感じております。

父の時代から毎年十月四日に靖国神社でお献茶をご奉仕して参りました。当然私も毎年ご奉仕しております。何か靖国神社というと、先の大戦の戦犯の事のみ話題になりますが本来日清・日露の両戦争や第一次世界大戦など色々な戦争の戦没者が祀られており、明治時代には既に創建されていたのです。

靖国神社で亡き戦友の御霊を思い一碗をお捧げする時、いつも何かさーっと爽やかな風が吹き渡るのを感じるのであります。

最近、一期一会という言葉が簡単に使われているように感ずるのですが、これは茶の世界で生まれた言葉であり、亭主は今この一碗を差し上げたなら死んでも良い。客もこのお茶を頂けるなら命を捧げても構わない、という主客両者の人間哲学が含まれていることを申し上げたいのです。私は一盃のお茶をもって世界を廻りました。茶の道は一見難しい作法ばかり

りと思われるようですが、スポーツにもルールがあるように美味しいお茶を差し上げ人と人との絆を大切にするためにこの作法があるのです。利休居士が残された和敬清寂の教えをあまねく世界の皆様にお教えしたい。

家庭内においても一寸したいざござは存在するし、未だに世界各地で戦いが人々の生活を脅かしております。家族間でも国家間でも、相互に自身の権力を保持しようとするためにぶつかり合うのです。

何故、半歩でもお互いに一寸足を引き心からの話合いが出来ないのでしょう。

このような話し合いが出来る世の中をつくるために、私はこれからお茶の心を広めていきたい所存です。その様な自分の念願の生存感というもので生かされていることを有り難く思い、日々戦没者の御霊に一碗のお茶を捧げております。



靖國神社参道の銀杏並木

年頭の御挨拶



靖國神社 宮司 山口 建史

明けましておめでとうございます。

令和四年の壬寅を迎え、まずは皇室の
 弥栄を壽ぎ奉り、我が国の平安と特攻隊
 戦没者慰霊顕彰会の皆様方の御多幸と御
 健勝をお祈り申し上げます。

人々の願ひと努力が実を結び
 平らげき世の到るを祈る

昨年の歌会始の御儀で今上陛下がお詠
 みになられた御製でございます。新型感
 染症の発生以来、私たちは不安な日々を
 過ごしておりますが、古来より国家の安
 泰と国民の安寧を祈られる天皇陛下の大
 御心を体し、国民の叡智の結集により超
 克していかねばなりません。

私たちは、これまで戦争や自然災害等
 多くの国難を経験してきました。今回の
 新型感染症を契機に従前の常識や慣習が
 見直され、新常态の時代に移行している
 ように見受けられます。ウィズコロナ・
 ポストコロナの社会において大局的な視
 点に立ち、不易流行を見極めることが肝
 要であります。

「一日生きることは、一歩進むことであ
 りたい。」ノーベル物理学賞を受賞され
 た湯川秀樹博士の言葉の如く、不断の努
 力によって大きな果実を実らせ、一歩前
 進した社会の形成を目指すべく邁進しな
 ければなりません。ワクチン接種が進み、
 有効な治療法が確立されつつある今日、
 これまで蓄積されてきた科学的データや
 知見が社会経済活動の両立、活性化にお
 いて必要不可欠な体制構築の一助になる
 ことを期待致します。

さて、今から六十年前の昭和三十七年、
 高度経済成長の最中、東京の人口が一十
 万人を超えました。人口の都市集中化や
 核家族化の進行により国民生活の価値観
 が多様化し、地域社会における共同体意
 識の稀薄化がもたらした影響ははかり知
 れません。他人の命、自らの命をも軽視
 する今日の世相を私たちは看過してはな
 しません。

りません。国事に殉ぜられた御祭神は日
 本の現状を如何に御覧になられているで
 しょうか。究極の利他の精神を体現され
 た特攻隊の方々には思いを致すとき、互い
 を敬愛し、尊重し合う精神こそが真の道
 義国家建設への端緒になるものと存じま
 す。

戦争を経験していない世代が全人口を
 占める時代を目前に控え、如何にして御
 祭神の御遺徳を顕彰していくかが喫緊の
 課題でございます。今も尚、靖國神社が
 政治や外交問題の渦中にあり続けること
 は、御祭神に対し洵に申し訳なく存じま
 す。国民一人一人が、政治的信条・宗教
 の壁を越え、わだかまり無く、自然なる
 慰霊の心情の発露によって、神前に額ず
 き、感謝の誠を捧げることができる世の
 中になることが、いずれや戦歿者追悼の
 中心的施設である靖國神社の明るい将来
 に繋がるものと確信致しております。改

めて靖國神社悠久の御安泰のため、不退
 転の決意を申し上げます。結びにあたり、
 本年も当神社に対し格別なる御高配を
 お願い申し上げます。皆様方にとりまして
 実り多き年となりませう祈念申し上げます。
 新年の御挨拶と致

新年の御挨拶



東京都世田谷区長 保坂 展人

新年明けましておめでとうございます。皆様には、令和4年の新春を健やかに迎えられたこととお喜び申し上げます。

令和2年の新春から感染が拡大した新型コロナウイルス感染症は、昨年夏の第5波では、世田谷区でも検査陽性者数は、一時一日400人を超え、在宅で療養される方が約3,500人と危機的な事態となりました。医療関係者の懸命な努力もあって、8月下旬から感染はピークアウトし、東京都においても「緊急事態宣言」が解除され、社会経済活動も次第と活発になってきています。他方で世界と

目を転じてみれば、流行は周期的な波形を描いており、ワクチン接種が進んでいる国や、感染者数の増加を抑えていた国においても、再び飲食店の営業時間の制限などの厳しい措置が取られています。世田谷区でも8割を超えるワクチン接種が進んでいます。2回接種後のブレイクスルー感染も報告されています。今後、流行が懸念されるインフルエンザ対策も含め専門家の助言も得て、第5波の教訓を活かして、すべての検査陽性者に「診断と治療」が可能となる体制を、医療関係者と世田谷区が機敏で緻密に連携して構築していきます。

この間のコロナ禍にあって、改めて強く大切と感じるのは、「平和の尊さ」です。社会経済情勢の先行きが見えづらく不透明が続く状況にあって、今日の平和で豊かな社会を築きあげられてきた、その『礎』に、第2次世界大戦で失われた、多くの若者たちの尊い犠牲があったからです。特に、70年前、戦禍激しい絶望的な中で、平和な世を願い、そしてご家族や親しい方を想いつつ、命を散らした特攻隊員の皆様方の存在を忘れてはなりません。

昨年の第70回の年次法要も、新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、一昨

年に続き参列ができませんでしたが、メッセージを送らせていただきました。この中で、宮本雅史さんが平成17年に書かれた『「特攻」と遺族の戦後』の本から、小学校で同級生であった林義則さんと小栗楓さんの出征が決まっていたから出撃までの手紙のやり取りを紹介しました。昭和20年4月に知覧より出撃し戦死された林義則さんの戦死公報が10月に届き、村役場の職員であった小栗楓さんが自分の手で義則さんの戸籍を抹消します。手が震えたそうです。「まさか、あの人の戸籍を自分の手で抹消するとは…。末期の水を取ってあげる気持ちでした」と。運命は残酷なものです。思いを通わせながら添い遂げることができなかったお2人のお気持ちを察すると胸が締め付けられる思いです。

わが国は戦後70年以上に渡り世界中のどの国とも一度も戦火を交えることなく、平和の歴史を積み重ねてまいりました。遠ざかる歴史の中で、その教訓を後世に伝えてきた皆様をはじめ、先人のご努力あつてのことと存じます。新型コロナウイルスの後の社会に向けて、平和の大切さを、皆様とともに次の世代にしっかりと伝えてまいりたいと思います。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

年頭の御挨拶



(特攻隊戦没慰霊顕彰会会員)

参議院議員 佐藤 正久

新年あけましておめでとうございます。特攻隊戦没者慰霊顕彰会の皆様のご支援、ご協力のおかげで旧年中も議員活動に専心できましたこと、紙面をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

コロナ禍が起きて本年度3年目になります。この間、各種行事が自粛、中止となり、特攻隊慰霊顕彰会の皆様におかれましても十全の活動ができず、そのご心労は如何ばかりだったかとお察し申し上げます。幸いにして、ワクチン接種率の向上や基本的な感染対策の徹底など、国民の皆様のご努力や政府・自治体の施策が功を奏したものと見え、令和3年10月以降の新規感染者数は低水準に留まっ

ております。(令和3年11月30日現在)
政府・与党といたしましては感染第6波への備えを充実させ、その拡大を最小限に抑えるべく日夜努力をしております。佐藤も自民党外交部会長として水際での感染対策等に注力しております。また、かつての日常生活を取り戻すための各種施策も検討されており、特攻隊戦没者慰霊顕彰会の皆様におかれましても感染対策を講じたうえで慰霊顕彰行事の開催が本年中には可能になるかと推察いたします。

さて、最初の神風特別攻撃隊がフィリピンのマバラカット基地を出撃してから77年余りの月日が経ちました。厳しさを増す当時の戦況を挽回すべく、十死零生の作戦に身を挺した特攻隊員の方々の姿は「健気」の一言に尽きます。体当たりという非常の戦術に対して批判する向きもありますが、その責は作戦指導に当たった軍・部隊の上層部が負うべきものであり、最前線で散華した特攻隊員の方々に何ら責められるべき点はありません。だからこそ諸外国では、この特攻隊員の方々の健気な献身と犠牲に対して感嘆と称賛の眼差しを向けるのでしよう。実際に終戦直後に特攻隊の調査にあたった米国戦略爆撃調査団の将校は、特攻隊員の方々が戦死確実の作戦になぜ志願したのかを当初は理解できませんでしたが、元特攻隊員(海軍飛行予備学生)の「戦況

の悪化を痛感し、特攻が最も有効な攻撃方法と確信した。我々が身を捧げることにより、日本の必勝を信じ、後輩がより良い学問を成しえる様にと考えて志願した」等の複数の証言を聞いて、「彼らの言うことは理にかなっており、アメリカ人にも理解できると思う」との所感を残しています。

こうした特攻隊員の方々の健気な献身と犠牲によって、今の日本は平和な時代を過ごしています。しかし戦争状態にはないものの、日本を取り巻く安全保障環境はこの10年間で大きく変化し、厳しさを増しています。皆様もご存じの通り中国が強引な海洋進出を進め、さらにロシアがその豊富な地下資源により経済を立て直して再び世界の強国たらんとしております。その中で最近問題になっているのが「純然たる平時ではないが有事でもない」という「グレーゾーン」への対処です。とくに尖閣諸島付近での中国海警局艦船の連日の遊弋が顕著ですが、この様な事態への確に対応し、特攻隊員の方々が身を挺して守った日本の領域を確実に防衛するために、現在「領域警備法」の制定を目指して佐藤は鋭意活動中です。特攻隊員の方々の健気な献身と犠牲に報いるべく今後も政治の場で国防に益々邁進していきますことを皆様にお誓いして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年を迎えて



(特攻隊戦没慰霊顕彰会会員)
参議院議員 宇都 隆史

特攻隊慰霊顕彰会の会員の諸先輩方、令和4年明けましておめでとうございませう。航空自衛隊出身、参議院議員の宇都隆史(ウトタカシ)です。昨年は公私にわたりご指導ご鞭撻を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨春秋、新たに誕生した岸田総理・総裁において内閣及び党内人事が刷新されました。私は菅政権においてお預かりしていた外務副大臣の要職を辞任し、新たに「自民党・政務調査会長代理」の役職を頂戴いたしました。政調会の所属機関である各部会にて審議された法案や予算は、その後に政調審議会にて了承するか

どうかを諮られます。しかも、全ての部会から上がってくる内容を審議しますの
で、幅広い知識や政策力が求められます。
今回私は、国防部会(防衛省)と経産部
会(経済産業省)を主に担当することに
なりました。岸田政権は、国家安全保障
戦略・防衛大綱・中期防衛力整備計画の
見直しを表明していますし、来年の通常
国会には経済安全保障に関する法案も審
議予定です。非常に重要な時期において、
それを中心的に取り扱う党の重要ポスト
を頂いたことを感謝しておりますし、ま
たその重責に身の引き締まる思いがして
おります。新たな役職においてしつかり
と仕事をし、自衛官出身議員として防衛
政策を主軸としながらも、経済産業分野
へも政策の幅を広げていきたいと考えて
います。

岸田政権において最優先でやってもら
いたいことは、「戦後の我が国の安全保
障体制の大転換」を実行することです。
岸田総理は専任大臣としては歴代最長の
4年7ヶ月を外務大臣としてご活躍され
ました。よって、一般の中国の覇権主義
や欧米の力の衰退といった外交・安全保
障の厳しい現実はいっかかりと頭に入っ
ています。その上で、国家安全保障戦略・
防衛大綱・中期防衛力整備計画を見直す
ということを明言し、総選挙初日の10月

19日に北朝鮮のミサイル発射を受けて国
家安全保障会議を開催し「防衛力の抜本
的な強化に向けて、敵基地攻撃能力の保
有も含め、あらゆる選択肢を検討するよ
う確認した」と発表しました。総選挙に
おける自民党の政権公約にも「諸外国並
みの防衛費GDP比2%を目標に抜本的
な増額を図る」とうたっています。また
6月末〜7月初旬に行われる参議院選挙
においては、この大転換の是非を国民に
問うという大切な意義もあります。私も
来年の参議院選挙には3期目となる挑戦
をする予定で既に党からの1次公認もい
ただいています。防衛の現場を知る数少
ない自衛隊出身議員として、岸田政権の
使命である安全保障体制の大転換事業に
おいて中心的役割を果たし、私自身もそ
の成果を持つて、更なる6年の任期をい
ただけるかどうか、皆様からの審判をい
ただくつもりです。

昨年末から落ち着きつつあるコロナで
すが、引き続き予防対策に万全を期しつ
つも、コロナによる2年間のマイナスを
取り戻す一年のスタートです。末筆なが
ら、今年一年が我が国及び国民にとりま
して幸多き年となりますよう、重ねて会
員の皆様の御健勝と御多幸を御祈念申し
上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。

新春のお慶びを申し上げます



(特攻隊戦没慰霊顕彰会会員)
衆議院議員 中西 哲

謹んで新春の寿ぎを申し上げます。

私は、鹿屋基地、海軍兵学校、靖国神社、大津島の回天特攻隊記念館などを訪れ、多くの特攻隊員の遺書を読みました。

その中で、鹿児島県の知覧特攻記念館で読んだ遺書が忘れられません。

知覧基地から直接飛び立った特攻機は約430機、ここにも多くの遺書と遺影が飾っており、丹念に読みました。

その中で、読んでいて意味の分からない遺書がありました。

それは藤井一中尉の遺書でした。

「冷えた12月の風の吹き荒ぶ日、荒川の河原の露と消し命。母と共に殉国の血に燃ゆる父の意志に添って、一足先に殉じた哀れにも悲しい、然も笑っている如く喜んで、母と共に消え去った、幼い命が

いとほしい。
父も近くお前たちの後を追っていきることだろう。
嫌がらずに今度は父の暖かい懷で、だっ
こして寝んねしようね。

それまで泣かずに待っていて下さい。
千恵子ちゃんが泣いたら、よくお守りしなさい。
では暫く左様なら。

父ちゃんは戦地で立派な手柄を立ててお土産にして参ります。
では一子ちゃんも、千恵子ちゃんも、

それまで待ってて頂だい。」

これまで読んだ遺書は祖国に対する思い、母や家族に対する思いがつづられた遺書でしたが、この遺書は何度読み返しても意味がわかりませんでした。

20歳前後の特攻隊員の多い中で藤井中尉は29歳、飛行機の前で撮った遺影は凛々しいお顔であった。

その謎は、記念館で買った佐藤早苗著「特攻の町知覧」という文庫本を読んで分かりました。

それによると、藤井一中尉はパイロットではなかったが、熊谷陸軍飛行学校の中隊長として飛行機乗りの教官をしていました。時節柄、多くの生徒が特攻隊員として出撃して行った。

「俺もかならず後からいく」と言った生徒との責任を果たすために、藤井中尉は

特攻隊員を志願したが中々受け容れられなかったそうです。

藤井中尉には中国戦線で負傷し入院中に、当時野戦看護婦として勤務していた福子という恋愛結婚で結ばれた妻と、3歳と生後4ヶ月の二人の娘がいたそうです。妻の福子は二人の娘と自分をおいて特攻を志願する夫の気持ちが変わらず、ずいぶんと言いつ争いもしたそうです。

それでも夫の決心が変わらないと悟った時に、福子は娘二人を連れて無理心中する道を選んだ。

昭和19年12月15日の早朝、夫が週番士官で基地に泊まり、家を空けている間に、妻福子(当時24歳)は3歳の娘になる一子と、まだ4ヶ月にしかならない千恵子と共に荒川に身を投げ、紐で結ばれた三人の遺体は荒川に浮かんだ。

この遺書は、その日の深夜、藤井中尉が母に連れられて死んでいった一子に宛てて書いた手紙で、藤井中尉の妹さんが保管しているものだそうだ。

決して読まれることのない、死んだ娘への手紙です。

藤井中尉はその半年後、昭和20年5月28日、知覧から出撃した第45振武隊長として沖縄近海海上で戦死されました。

戦争に巻き込まれないためにはしっかりと抑止力、防衛力が必要であると思えます。



多田野語録
「死中かつあり」

会員 多田野 弘

今回の「死中活あり」は、いかなる過酷な状況に置かれても、活路は見出せるということである。これほど私に相応しいテーマはないと思った。私はかつて青年期に、数知れぬほど死に直面している。3年間にわたる、南方（ラバウル・サイパン・ペリリュー島・フィリピン）の4戦場での体験である。このように最前線で闘い続け、幾度も死ぬ目に遭遇したのには、海軍兵士多しと雖も稀有の存在ではないかと自負している。死に方を考え抜いたエキスパートと言ってもよいだろう。死に直面しながら、如何にして死中に活を得たかである。

現今のような平和な時代においても、

私たちが遭遇する絶望的困難や死をどう考えるかの問題は、戦場と少しも違わない。考え次第で、死中に活を得られるかどうかが決まるからだ。ところが、必ずやってくる死については、大抵の人が、生きたいと思う自分に、情け容赦なく約束させられる、恐るべきことだと受け取っている。そのような考えでどうして、死中に活を得られようか。今の私があるのは、何度も死に直面したおかげと思う。

私が死中に活を得た数ある体験の一つを述べたい。昭和19年1月ラバウルでは、連日、100機に余る戦爆連合の空襲に對し、我が戦闘機200機余が邀撃、撃退していた。しかし、日を経るにつれ、彼我の補給力による戦力の差が大きくなり、このまま推移するならば、死がそう遠くないことが一兵士の私にも予想された。連日の戦闘が続く中で、毎夜「今日は無事だったが、明日は分かんぞ」と自分に言い聞かせて眠った。ある深夜、「びくびくせずに潔く死ね」という声が心の奥から聞こえてきた。「そうだっ！祖国と家族の平安のために命を捨てるのは男子の本懐だ」と、スパッと死を決心することができた。この死こそ、自分を最高に活かすことになると考えたからだ。

すると不思議にも、心が解放されて自由になり、澄み切った青空のような気持ち

になったのを今でも覚えている。それ以来、自分が驚くほど、平気で弾雨の中を動き回れるようになった。命懸けの行為だからこそ、活路が開かれるのだという考えは、期せずして私の人生観の核となっている。捨てなければ得られないのである。

死中に活ありの体験をもう一つ記す。ラバウルは次第に敗色が濃くなり、我が隊は全員サイパン島に移動が決定された。私たち地上員250名余は2隻の貨物船（海川丸、羽黒丸）で行くことになったが、さて、困ったことになった。その頃既に、空も海も米軍の勢力下であり、出て行く船は殆ど沈められていた。地上であれば、一発の弾丸で瞬時に死ぬるが、船が沈めば、どのようにして死ねばよいかを考えずにはいられなかった。出港の前夜は悶々として眠れず、夜が白む頃になつてやっと一つの案が浮かんだ。水中を深く潜つて、ある深度に達すると意識を失うことを思い出した。「よしっ、これでいこう」と、死に方を得た私は安心して泥のように眠った。

出港した翌日、案の定、見張り員の「空襲」を連呼するのが聞こえた。上空を見ると、コンソリデーテッド（双発爆撃機）がこちらに向かってくるや、爆弾を投下し始めるのが見えた。しかし、甲

板には退避する場所はない、どこにいても死ぬのは同じと突っ立っていると、轟音と共に海水がどつと頭上に落ちてきた。「しめたっ！至近弾だ」、ふと見ると、僚船（羽黒丸）が直撃を受けたのか舳先を上にして目の前で沈んでいくではないか。我が船でなくてほっとしたが、彼らの苦難をどうすることもできない自分が情けなかった。

我が船は無傷だったので運航を続けていた。だが、翌日の昼過ぎ、見張り員の「雷撃！」という声を聞くや否や、轟音と共に私は甲板に叩きつけられた。起き上がったとみるとどこも傷をしていない。船は機関をやられていないのか進んでいる。私はとっさの判断で2発目の雷撃必至とみて、舷側から海に飛び込んだ。行くも死、留まるも死だった。

赤道直下の海は冷たくなかった。山のような波の頂上に来た時見ると、私と同じように船を捨てた兵士たちが点々と浮かんでいる。さて、私はこれからどうすべきか、このまま浮いても半日は持つまい。だが、疲れ果てての溺死は真つ平御免だ。その時こそ出航前夜に思いついたあの手で死のうと思うと、すんと気が楽になった。しかし死ぬのはまだ早い、潜る力を残して、それまで浮いていようと思った。

太平洋の波間に一人浮いていたのだが、少しも寂しいとは思わなかった。海軍は、海が働く場であり家であり、同時に墓場でもあるからだ。漂いながら、このようにな死でも戦死になるだろうか、家族が知って貰えてくれるだろうかなどの思いが、次々と走馬灯のように頭に浮かんできた。それにしても、こうして積極的に死を受け容れられる自分を誇らしく思えた。ふと見ると、夢ではないか、いつの間に来たのか、遠くに我が駆逐艦がカッターを降ろして救助をしている。私は急いで泳いで行き、カッターに引き揚げてもらった。結局、潜らずに済んだ。

これを記しながら、驚くほど今の境涯に似ているではないかと思つた。今でも直感が鋭く、決断が速いのはこの時の体験によるといえる。101歳を迎えた私だが、死ぬのはまだ早い、その時が来るまで、充実した悔いのないものにしよう。捨てなければ得られない、生かされている今に感謝して、75年前のような、「死中に活あり」の毎日を過ごしている。

多田野語録

「努力にまさる天才なし」

会員 多田野 弘

今回のテーマは、努力が天才よりまさることを示している。たとえ、素晴らし

い才能があっても努力なしでは顕現できない。努力が大事なことは周知の事実だが、心身の苦痛を伴い実行がむづかしい。しかし、苦痛なしに努力できる方法がある。端的にいえば、努力することに喜びや気持ちよさをつくることである。「好きこそ物の上手なれ」の言葉にも通じる。努力が楽しみになれば苦痛ではなく喜びとなる。だが、どうして苦しみ喜びになるのだろうか。

苦痛を耐え忍ぶのではなく、楽しみながら継続するなら朝の洗面のように習慣となる。世の中に「意志が強い」と自覚する人は少なく、「なんて意志が弱いのだろう」と自省している人が多い。私たちは何か良い習慣を身につけたい、あるいは悪習慣を止めたいと相当な決心をして取り組んでも、いつの間にか三日坊主の尻すぼみになっている。それを何とかしようと自分に鞭打ち努力するのだが、結果は元の木阿弥になる。

これは出発点の考え方が誤っているからではないだろうか。肉体を鍛えるのと同様に、弱い意志力を叩いて鍛えればもっと強くなると思うところに大きな錯誤がある。肉体があるように意志という形のものがあるわけではないから、肉体を鍛えるように弱い意志を鞭打ち鍛えることは、本来できない相談である。

問題は「意志や意欲」が自分のどこから発しているかに関係しているように思う。つまり、その出場所如何によって

「三日坊主」になるか「やり通す」かとなり、それを「意志が弱い、強い」と言っているだけである。出場所は二つあつて、「心」から出る意思は弱く、「魂」から出る意志は強いといえる。ところが、私たちは自分が意識できる「心」が、精神作用の全てと思ひ込んでいて、「魂」なるものの存在をアタマから否定してしまっているが、心と魂は別ものなのである。

意志の弱さは「心が魂にそむく」ことに起因するといえる。なぜならば、心はとかく末梢的な、五官の感覚を喜ばせる快樂を求めるが、魂の方は、もつと次元の深い、本当に自分のためになる快樂を求める。それゆえに、五官にとつては苦しう、心が喜ばないことを、魂は快樂とすることがある。味覚を例にとれば、心は舌の快樂を求め、飲み過ぎ、食べ過ぎ、美食に陥って健康を損ねることがあるが、魂は逆に粗食や節制を、必要となれば断食さえも快樂とする。

心が澄んで五官の欲望に流されず、虚心、無心になれる人は好奇心に溢れ、魂の命令に忠実に従うことができる克己の人である。だから意志の強弱というのは、魂の命令に従うか、心の欲することに従

うかによって決まるといえる。努力、忍耐、克己という言葉から、苦痛を連想するか、それとも快さの方を意識するかである。前者の人は、心の欲望が強く、忍耐、克己に苦痛を連想し「楽しくない」ので努力が続かない。後者の人は、忍耐力、克己を魂の喜びと感じられるので、「楽しんでみながら」努力できるのではないだろうか。

楽しくないことは長続きしない。例えば、私はアラームなしの5時起床を、何十年も続けており、元日の海での寒中水泳を93歳まで49年間続けてきたことにも見られる。人から「意志の強い人だなあ！」と感心される。だが、私はこれを楽しんでやってきた。毎朝5時起床も、辛さをこらえ、無理に自分に鞭打ってやっているのであれば、一ヶ月も続かなかつただろう。私は、早起きすることが「気持ちいい」から習慣となり、今もそうするのが当たり前になつている。

楽しくないことは長続きしないが、苦痛が快樂になれば続けずにはいられない。そうした努力が続くと、習慣がつくられ、よき習慣は期せずして人格を形成する。人格は、環境を変えたとともに運命を変え、素晴らしい人生を創造せずにはいない。まさに「努力にまさる天才なし」である。

1 著者の軍歴

昭和14年海軍に入隊、航空機整備兵となる

昭和18年、ラバウル、サイパン、トラック諸島、ペリリュー島、フィリピンへと転任、同地マバラカット飛行場に於いて、

昭和19年10月25日 最初の神風特別攻撃隊の出撃を見送る。その後、整備員として特攻作戦に参加、多くの特攻機を見送った。

基地員として、命懸けの特攻作戦を経て、昭和20年1月茨城県の戦闘306飛行隊に転任。8月、宮崎県富高で終戦を迎える。

復員後、株式会社タダノ創業者多田野益雄（父）とともに日本で最初の油圧式トラッククレーンを創りあげた。

現在はタダノ名誉顧問に在籍。戦後、民間人として、戦時中の、特攻隊員等戦没者の慰霊顕彰に尽力。

2 その他（以下の情報がネットで検索可能です）

- ・NHKアーカイブ「多田野弘さん証言 - NHK戦争証言アーカイブス」
- ・株式会社タダノのホームページ
- ・tagano.co.jp / 企業 / 航海日誌
- ・エッセイ「航海日誌」

令和4年度慰霊行事予定(当頭彰会主催及び他団体主催慰霊祭参加予定)

(慰霊行事名)	(期日・場所)	(主催者名等)
① 神雷部隊慰霊祭	3・21(祝) 建長寺「神雷戦士の碑」	(主催者名等) 湘南水交会
② 第43回特攻全戦没者慰霊祭	3・26(土) 靖國神社	(公財) 特攻隊戦没者慰霊顕彰会
③ 宮崎県特攻勇士の像慰霊祭	3・28(月) 宮崎縣護國神社	宮崎縣護國神社
④ 旧鹿屋航空基地特攻隊戦没者追悼式	4・2(土) 小塚公園内慰霊碑	鹿屋市
⑤ 宮崎特攻基地慰霊祭	4・3(日) 宮崎特攻基地慰霊碑	宮崎特攻基地慰霊祭実行委員会
⑥ 第46回都城市特別攻撃隊戦没者慰霊祭	4・6(水) 都島公園慰霊碑	都城市特別攻撃隊戦没者奉賛会
⑦ 戦艦大和追悼式	4・7(木) 呉市長迫公園	戦艦大和会
⑧ 第2艦隊慰霊祭	4・7(木) 奈良市大和神社	大和神社
⑨ 第55回徳之島慰霊祭 (戦艦大和を旗艦とする第二艦隊戦没者)	4・7(木) 犬多布岬慰霊塔	伊仙町慰霊祭実行委員会
⑩ 第51回萬世特攻慰霊碑慰霊祭	4・10(日) 萬世特攻慰霊碑	南さつま市・萬世慰霊碑奉賛会
⑪ 第62回出水市特攻碑慰霊祭	4・16(土) 特攻碑公園慰霊碑	出水市特攻慰霊碑顕彰会
⑫ 靖國神社春季例大祭(当日祭)	4・22(金) 靖國神社	靖國神社
⑬ 沖繩県特攻勇士の像慰霊祭	4・23(土) 沖繩県護国神社	沖繩県護国神社
⑭ 國分基地特攻隊員戦没者慰霊祭	4・25(月) 特攻碑公園内特攻機発進の地	霧島市
⑮ 秋田県特別攻撃隊招魂祭	4・29(祝) 秋田市総社神社	招魂祭実行委員会
⑯ 第68回知覧特攻基地戦没者慰霊祭	5・3(祝) 知覧特攻平和観音堂	南九州市・知覧特攻慰霊顕彰会

- ①第56回特攻殉国の碑慰霊祭 5・8(日) 特攻殉国の碑 川棚町新谷郷殉国の碑保存会
- ②福岡県特攻勇士の像慰霊祭 5・14(土) 福岡縣護国神社 福岡県特攻勇士慰霊顕彰会
- ③第55回三重海軍航空隊「若櫻の碑」慰霊祭 5・22(日) 若櫻の碑霊園 香良洲神社
- ④京都靈山護國神社特攻勇士の像慰霊祭 5・22(日) 京都靈山護國神社 関西白鷗遺族会
- ⑤義烈空挺慰霊祭 5・22(日) 摩文仁丘義烈空挺隊慰霊碑 全日本空挺同志会熊本支部
- ⑥千葉県特攻勇士の像慰霊祭 5・26(木) 千葉縣護國神社 千葉縣護國神社
- ⑦指宿海軍航空隊基地哀惜の碑慰霊追悼式 5・27(金) 指宿海軍航空基地哀惜の碑 指宿海軍航空基地哀惜の碑顕彰会
- ⑧豫科練戦没者慰霊祭 5・29(日) 陸自武器学校豫科練之碑 海原会
- ⑨筑波海軍航空隊慰霊の集い 5・29(日) 県立こころの医療センター 筑波海軍航空隊友の会
- ⑩義烈空挺隊慰霊祭 6・5(日) 摩文仁丘義烈空挺隊慰霊碑 全日本空挺同志会沖縄支部
- ⑪能代特攻像慰霊祭 6・19(日) 能代鎮守八幡神社 東雲飛行場戦没者慰霊顕彰会
- ⑫大東亜戦争全戦没者合同慰霊祭 7・9(土) 靖國神社 (公財)大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会
- ⑬山形回天錨地蔵尊御霊祭 7・18(祝) 錨地蔵尊 錨地蔵尊奉賛会
- ⑭国分第二基地十三塚原特攻隊慰霊祭 8・15(月) 十三塚原海軍特攻碑 霧島高原ビル(株)
- ⑮全国戦没者慰霊大祭 8・15(月) 靖國神社 英霊にこたえる会
- ⑯戦歿学徒慰霊祭 8・28(日) 広島護國神社 戦歿学徒慰霊祭実行委員会
- ⑰第59回楠公回天祭 9・4(日) 信貴山山王坊 回天楠公社奉賛会
- ⑱高野山慰霊祭 9・11(日) 高野山「空」の碑 全日本空挺同志会

- ③⑤ 第71回特攻平和観音年次法要 9・23 (祝) 世田谷山観音寺特攻観音堂
(公財) 特攻隊戦没者慰霊顕彰会
- ③⑥ 鉾田陸軍飛行学校慰霊祭 10・4 (火) 鉾田陸軍飛行学校顕彰碑奉賛会
- ③⑦ 長野県特攻勇士之像慰霊祭 10・9 (日) 長野縣護國神社
- ③⑧ 茨城県特攻勇士の像慰霊祭 10・9 (日) 茨城県護國神社
- ③⑨ 旧海軍航空隊串良基地出撃戦没者追悼式 10・9 (日) 串良平和公園慰霊塔前
鹿屋市
- ④⑩ 明野忠魂塔慰霊祭 10・15 (土) 陸自航空学校・明野忠魂塔前
明野忠魂塔顕彰会
- ④⑪ 靖國神社秋季例大祭 (当日祭) 10・18 (火) 靖國神社
靖國神社
- ④⑫ 千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季例大祭 10・18 (火) 千鳥ヶ淵戦没者墓苑
千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会
- ④⑬ 大東亜戦争戦没学徒慰霊祭 10・23 (日) 靖國神社
大東亜戦争戦没全学徒慰霊祭
 実行委員会
- ④⑭ 第13回大阪特攻勇士之像慰霊祭 10・23 (日) 大阪護國神社
大阪特攻勇士之像慰霊顕彰会
- ④⑮ 神風特別攻撃隊戦没者慰霊祭 10・25 (火) 西条市榎本神社
神風特別攻撃隊五軍神
 特攻戦没者奉賛会
- ④⑯ 神風特攻隊慰霊碑参拝 10・25 (火) 比島マバラカット市
マバラカット市
- ④⑰ 埼玉県特攻勇士之像慰霊祭 10・31 (月) 埼玉縣護國神社
埼玉縣護國神社
- ④⑱ 回天烈士並びに回天搭載戦没潜水艦乗員追悼式 11・13 (日) 大津島・回天慰霊碑前
周南市大津島回天顕彰会
- ④⑲ 若潮慰霊祭 11・23 (祝) 小豆島富丘八幡神社
若潮の塔奉賛会

(日時等詳細は顕彰会事務局又は主催団体等にお問い合わせ下さい。)